漢字の読み書き・文法・古文『大鏡』

北海道教育委員会　令和 8 年度公立高等学校入学者選抜　国語

北海道教育委員会　二次利用条件

対象ページを抜粋し、出典表紙を追加。

https://www.koukou.hokkaido-c.ed.jp/gakuryokukensa/r08gakuryoku/r08nyuusi_kokugo.pdf

https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/SecondaryUse.html

一

次の問いに答えなさい。（配点　28）

問一　(1)、(2)の――線部の読みを書きなさい。

(1)　ここは、地域の人々の憩いの場となっている。

(2)　登場人物の含蓄のある言葉に感動した。

問二　(1)、(2)の――線部を漢字で書きなさい。

(1)　大つぶの汗がヒタイから流れる。

(2)　農業は、この地域のキカンとなる産業だ。

問三　次の文の――線部と～～線部が適切に対応するよう、□に当てはまる語を書きなさい。

彼は、まるで薄い氷の上を歩く□、少しずつ慎重に進んでいった。

問四　次は、中学生の安藤さんが、[　]で囲んだ漢字を漢和辞典で調べる方法を述べたものです。あなたが安藤さんになったつもりで、①に当てはまるものを、Ⅰ群のA、Bから一つ選び、選んだものに応じて②に当てはまる最も適当なものを、Ⅱ群の**ア**～**ク**から選びなさい。

照

私は、この漢字を①索引で調べようと思います。この引き方で調べる場合、まずは①索引のページで②の漢字がどのページに載っているかを調べます。そして、この漢字を探して見つけます。

〔Ⅰ　群〕

A　部首

B　総画

〔Ⅱ　群〕

ア　まだれ　　**イ**　れんが　　**ウ**　りっとう　　**エ**　おおがい

オ　十二画　　**カ**　十三画　　**キ**　十四画　　**ク**　十五画

問五　次の文章を読んで、(1)～(3)に答えなさい。

これは、藤原道長（入道殿）が催した船遊びに、藤原公任（大納言）が参加したときの話です。この船遊びでは、道長が、漢詩（作文）の船、音楽の船、和歌の船と、三つの船を用意し、その道に優れた人をそれぞれの船に分けて乗せ、その腕を披露させました。

入道殿「かの大納言、いづれの船にか乗らるべき」とアのたまはすれば、「和歌の船に乗りはべらむ」とイのたまひて、詠みたまへるぞかし、

[1]小倉山あらしの風の寒ければ紅葉の錦着ぬ人ぞなき

申し受けたまへるかひありて遊ばしたりな。御みづからも、ウのたまふなるは、「作文お願いしてお乗りになっただけあって、見事にお詠みになったものです
のにぞ乗るべかりける。さて、かばかりの詩を作りたらましかば、名のあがらむ
そうして、これほどの漢詩を作っていたなら
こともまさりなまし。口惜しかりけるわざかな。さても、殿の、『いづれにかと思ふ』と
より以上だったろうに　残念だったことだ
エのたまはせしになむ、[2]我ながら心おごりせられし」とオのたまふなる。
得意にならずにはいられなかった

（「大鏡」による）

（注）　申し受けたまへるかひありて遊ばしたりな――語り手の感想。

(1)　～～線ア～オのうち、入道殿の動作を表しているものを、二つ選びなさい。

(2)　次は、――線1の和歌について説明したものです。［①］に当てはまる語を和歌から書き抜きなさい。また、［②］に当てはまる表現を、五字以上、八字以内で書きなさい。

この和歌は、小倉山や嵐山から吹く冷たい風によって散る「［①］」を、「人々が［②］」に見立てて詠んでいる。

(3)　――線2「我ながら心おごりせられし」とありますが、大納言がこのような気持ちになった理由を説明したものとして最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　自分の詠んだ和歌の情景を、人々が高く評価していると感じたから。
イ　入道殿に、漢詩、音楽、和歌の全ての道で認められていると感じたから。
ウ　乗る船を自分で選べるほど、入道殿に地位の高さを認められていると感じたから。
エ　素晴らしい漢詩を作ることができたなら、今以上に名が上がるだろうと感じたから。